

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 菊陵 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 英語)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 英語)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語、数学、英語)の結果

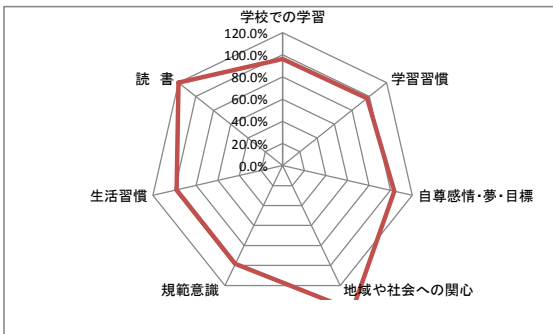
本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	6.9	69	8.9	56	10.6	51
全国	7.3	73	9.6	60	11.8	56

※英語「話すこと」調査に関しては、参考値のため、集計から除外している。

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	問題文の内容を把握できていない上に、選択肢の中で答えに寄せた語や言葉を選んでいる。特に自分の考えを書く問題や具体例を書く問題に関しては無解答率が高いところが課題である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	文章に書かれているものの見方や考え方について、内容を捉える問題。	
	努力が必要な問題	封筒の書き方を理解して書く問題。文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える問題。	
数学	全体的な傾向や特徴など	数量や図形などについての意味を理解する問題に関しては、全国平均を少し上回る結果を残しているが、関数の問題は正答率が低く、また、説明する問題に関しては無解答率が非常に高いところが課題である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	平行移動の意味や反例の意味を理解しているかどうかを問う問題。	
	努力が必要な問題	関数のグラフの座標が何を表しているか、式やグラフを読み取り説明する問題。	
英語	全体的な傾向や特徴など	記述式の問題になると無解答の生徒が多い。英文を理解する力も必要であるが、その話題について自分の考えをまとめ、それを正しく英語にすることに大きな課題がある。また、抵抗感を持つ生徒も多い現状もある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	語と語の連結による音変化をとらえて、情報を正確に聞き取る問題。教室英語を理解して、情報を正確に聞き取る問題。	
	努力が必要な問題	書かれた内容に対し、自分の考えを示す問題。与えられたテーマについて考えを整理し、まとまりのある文章を書く問題。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
○家庭学習に関しては、時間をかけて学習している生徒の割合は、全国平均と比較しても遜色ないが、一時間未満の生徒の割合が非常に高く、学習習慣の定着という点に関しては課題がある。
○読書を全くしない生徒の割合が半数を超えており、読解力や表現力、説明する力が身につけていない要因の一つと考えられる。
○発表する際、グループで話し合う際、自分の考えをまとめることや深めることができていないと感じている生徒が多いため、そのような場を数多く設定していく必要がある。
○1割の生徒が朝食を食べず、起きる時間が安定していない。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

全校で朝読書を行うことで、活字に触れる機会を増やし、読解力を身につけさせ、説明力や表現力の向上に取り組む。また、話し合い活動を充実させることで思考力を磨いていく。1日1ページノートの取組や教科コンクールの取組を継続して行い、基礎学力の定着を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

栄養教諭や食育担当を中心として、家庭と連携し、食育を推進していく。また、規則正しい生活習慣を身につけさせるため、学校生活で時間を守って行動する大切さ等を認識させる。